

## 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

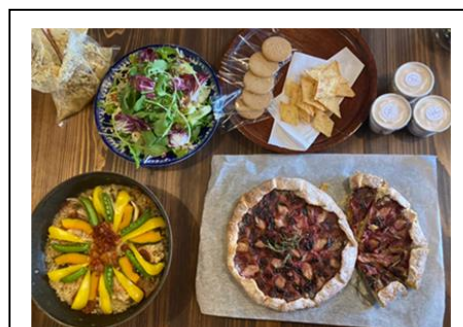
事業名	小谷村伊折地区の新地域特産物のブランド化推進事業
事業主体 (連絡先)	伊折農業生産組合 電話番号 0261-82-2230 E-mail <a href="mailto:yukiwarisou.iori@gmail.com">yukiwarisou.iori@gmail.com</a> 担当藤原
事業区分	(6)イ農業の振興と農山村づくり (1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	962,129 円 (うち支援金: 763,000 円)

### 事業内容

1. R3年度栽培したハーブの安定生産を目指す為、栽培指導を受け畑の土壌改良・栽培検証を行う。
2. ハーブの商品化に向けて加工品の試作を村内近隣事業者と共同で試作を行う。
3. 伊折で生産している雪中キャベツとミニトマトとハーブを組み合わせてキット商品として開発する。
4. 伊折体験施設「ゆきわり草」を活用しハーブを使った体験講座を開催する。オンラインでも開催する。

<規模> 8a

<方法等> 栽培方法や土壌改良を行い品種の選定なども行う。加工品として試作したものは試食会を行う。体験講座は村内の女性講師に依頼し行う。



【ハーブ試作品試食会】

### 【目標・ねらい】

- ① 高齢化・過疎化に対応した持続可能な農産物栽培方法の構築
- ② ウイズコロナなどにも対応できる販売方法の検証
- ③ 村内外事業者との共同試作による地産地消への取り組み

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①栽培指導を受け有機物を使った栽培方法や土壌改良を行うことにより、持続可能な生産性の構築及び作業時間や人員の削減にもつながった。

②コロナ禍でもできる体験の方法としてオンラインで講座を開催した。生産物の販売だけではなく幅広く体験なども取り入れることでより多様な層へハーブや農村を身近に感じてもらうきっかけとなると感じた。

③ハーブ製品を村内外の事業者と共同で試作することによりハーブの使用用途やニーズなどもつかむことができた。また試飲や試食会ではハーブを普段の生活にも取り入れてみたいという意見も聞かれた。

### ※自己評価 【 B 】

#### 【理由】

R4年度は共同試作などにより様々なアドバイスやニーズを掴むことができ、幅広い分野への活用の可能性を感じた。R5年度は安定生産と商品化に向けて更に地域内外の方とつながり、取り組みを行っていききたい。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

R4年度の取り組みを生かし引き続きハーブの安定生産に向けて持続可能な土づくり、畑づくりを進める。R5年度はさらに遊休農地も開墾し栽培面積を広げる予定である。R5年度は生産だけではなく体験提供にも重点的に取り組みたい。R4年度試作したものをR5年度は商品化に向けて仕上げるとともに、新たにオリジナルのハーブティーの制作にも取り組む予定である。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある